

9月22日第13回リニア勉強会を開催しました。講師は元奈良新聞記者で現在はフリージャーナリストとして活躍している浅野詠子氏です。巨大開発に対する市民の運動、学ぶことがたくさんありました。左記は浅野氏からのご寄稿です。

大滝ダム地すべり裁判から学んだこと

〜リニア奈良誘致の落とし穴〜 浅野詠子

ほとんど誰も耳を傾けることのない紀ノ川上流の大滝ダムのルポが、リニア市民ネット・大阪の代表、春日直樹さんの目にとまり、本年9月、定例の勉強会でスピーチの機会を頂きました。

地質に課題を残しながら、立ち止まらなかつた国家の巨大公共事業の話です。地味なテーマにもかかわらず、遠くは和歌山の龍神村をはじめ、各地から多くの人々がお越しになりました。リニアの問題と大いに共通点がありそうだと、そんな感想が寄せられております。

舞台は奈良県吉野郡川上村。1959年の伊勢湾台風をきっかけに、半世紀の歳月と3640億円の公費をかけ、大滝ダムは2013年に完成します。私は新人記者のころ、紀伊半島の東部山岳地帯の町村を5年間担当し、そのなかに川上村もあり、このテーマは誰にも渡したくないと思いました。2年ほど取材し、昨夏、『ダムと民(たみ)の五十年抗争』(風媒社)のタイトルで刊行しております。

ヤマ場は、ダムの本体が完成した翌年の2003年、試験貯水中に護岸の白屋集落の家々の壁や地面に亀裂が走り、全37世帯が離散を余儀なくされるくだりです。

実は30年前に警告されていきました。吉岡金市博士が1974年、詳細な現地調査を行い、「大滝ダムが貯水を開始すれば、白屋集落の地すべりを誘発する」と訴えていたのです。4年後には、公的な地質調査委員会がまとめた報告書のなかに、深度70メートルの地点に風化した粘土があるという所見がありました。

しかし国が取った対策は、浅い地すべりしか想定していなかったのでしょう。貯水して1カ月後に亀裂現象が見つかり、白屋集落の人々は仮設住宅に移されます。3年半にわたる苦しい生活でした。国はようやく地すべり工事に本腰を入れます。

こみ上げる怒りが国家賠償請求の裁判を決定させます。訴訟では、地盤工学や地形土壌災害を専門とする学者二人の意見書が心棒になりました。

奈良地裁の判決は2010年、「試験湛水に伴う地すべり発生に伴う危険防止措置は不十分。大滝ダムの設置には瑕疵がある」と認め、大阪高裁で住民側の勝訴が確定します。

勝っても、人々の絆には、とうに亀裂が入っていました。仮設住宅にいるとき、どこに移転するかで争いになり、コミュニティは裂かれてゆきます。巨大ダムがなしたものは、自然破壊だけではありませんでした。

こんな私の話を熱心に聞いて下さった会場のみなさん。リニア市民ネット・大阪の勉強会も13回を数えましたね。これからも、世間に知られないテーマを追いかけるライターとか、コツコツやっている地道な研究者らが勉強会の講師として発掘されていくことでしよう。



上：第13回リニア勉強会 in 奈良
下：懇親会にご参加の皆さんと

ストップ・リニア！訴訟 @東京地裁

2018年11/30(金)
2019年2/8(金)、5/7(金)
14:30~
*傍聴券は14:00頃から抽選
*13:15~地裁前で集会あり

定例ミーティングのご案内
毎月第2水曜
@大阪市総合生涯学習センター
大阪駅前第2ビル5階

「リニア新幹線が不可能な7つの理由」
樫田秀樹 著 ¥560+税 岩波ブックレット
リニアが抱える7つの課題や問題点(①膨大な残土②水枯れ③住民立ち退き④乗客の安全確保⑤ウラン鉱床⑥ずさんなアセスと住民の反対運動⑦難工事と採算性)を取り上げています。関西の私たちが今、リニアの問題、課題を知ることが重要です。将来必要とされる公共交通機関となるのか冷静に判断する時期です。

ご参加お待ちしております！



ホームページ

<https://linearnetosaka.wixsite.com/linearnet-osaka>
-----連絡先-----
リニア市民ネット・大阪
(代表) 春日直樹
naoki.kasuga.46
@ceres.ocn.ne.jp